

学位論文審査の要旨

学位申請者	洲崎 圭子【論文博士】 【比較社会文化学専攻 平成19年度生】 (平成28年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	ロサリオ・カステリャノス研究 -錯綜する周縁化を生きて-	本論文は、20世紀半ば、メキシコが家父長制を基盤とした近代国民国家の創成を急いだ時期に、上層階級の知識人として、政府機関職員、大学教授、外交官を歴任しつつ、精力的に詩やエッセイ、戯曲、小説を発表した女性作家ロサリオ・カステリャノス Rosario Castellanos (1925～1974) による先住民世界や女性を扱った小説作品を主な分析対象に、先住民世界／白人世界、地方／都会、第一世界／第三世界、政府側／大衆側等、さまざまな境界を往還しつつ、一貫して多種多様な女性の状況を描くことに専心したカステリャノスを、メキシコの社会歴史的な文脈の内に位置づけ、その作家としての功績を再評価したものである。
審査委員	(主査) 教授 戸谷 陽子	第1回審査委員会では、本論文が第三世界のフェミニストとしてのカステリャノスの功績を明らかにした研究の成果であり、世界水準の研究動向を含む先行研究が網羅され、わが国のメキシコ現代文学研究の今後に貢献する可能性を持つ論文として審査に値するという点で意見が一致した。その上で、作家の複雑な立場性および政治性を、わかりやすいフェミニズムやヒューマニズムに回収せず、より丹念に記述すること、序論で援用したスピヴァクの議論を精緻化すること、他民族社会であるメキシコ社会の状況や検閲制度等メキシコの社会歴史的背景についての解説、マチスモの議論の展開、周辺のラテンアメリカ文学との関連の考察を加筆し、語や表現の使用を精査する等の改稿要求と助言がなされた。 第2回審査委員会では、改稿案に沿って議論が整理されたことが確認された。また、インディヘニスム、トラテロルコ事件等、言及される事項と、本論文の議論との関わりをさらに明確にするようにとの再改稿案が提案された。 第3回審査委員会はメール審議となり、修正により全体のまとまりと説得力が強化され、論文としての完成度が高められたことが確認された。 公開発表では上記の修正が活かされ、論文の論点・流れともに明快に説明され、また質疑応答も適切であった。最終試験では、試問に対し、適切な応答がなされ、改稿・修正が適切になされていることが確認された。 以上のことから、本審査委員会は、博士(人文科学) Ph.D in Latin American Literature の学位にふさわしい論文であると判定し、合格とした。
	准教授 高桑 晴子	
	准教授 中野 裕考	
	教授 松崎 毅	
	教授 野谷 文昭 (名古屋外国語大学)	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第22条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

